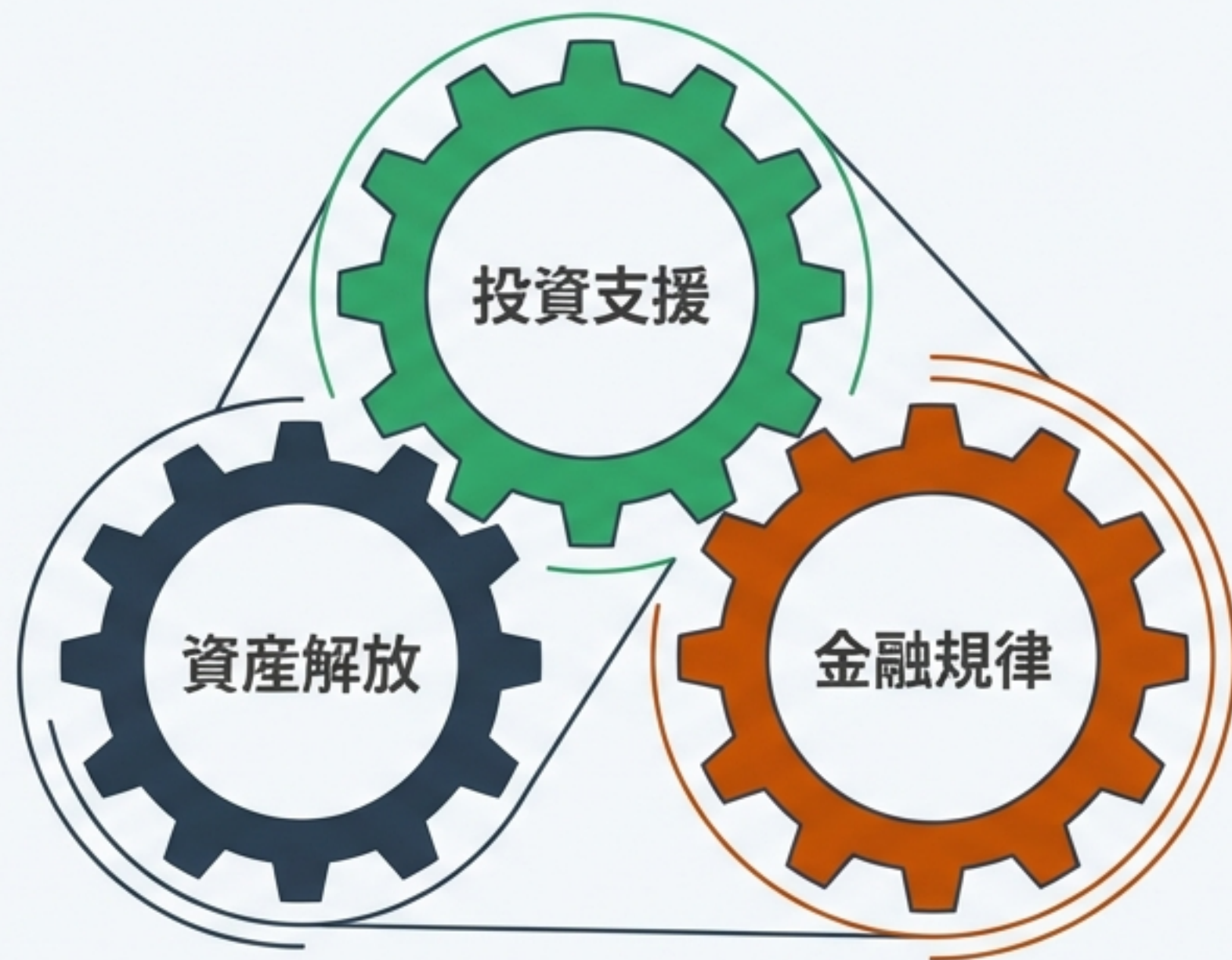


2026年 中小企業経営戦略レポート 変化を「機会」に変える3つの視点

1.13兆円の補正予算、金利ある世界、そして企業価値担保権の解禁へ



「高支援」と「高規律」が共存する、かつてない経営環境へ

2026年は、単なる景気変動の年ではありません。政府による過去最大級の支援と、30年ぶりの金利上昇が同時に進行する「選別と集中」の年となります。



1. Accelerate (加速)

令和7年度補正予算。過去最大級の約1兆1,300億円規模の支援。ターゲットは「省力化」と「100億企業」。



2. Adapt (適応)

政策金利0.75%時代。30年ぶりの高水準により、資金調達コストが増加。「貸し渋り」リスクへの備えが急務。



3. Unlock (解放)

2026年5月、企業価値担保権制度スタート。不動産担保や経営者保証に依存しない、新たな資金調達の道。

過去最大級の1兆1,300億円：国が本気で支援する「成長」と「変革」


令和7年度補正予算（2025年12月16日成立）

例年の規模感

1.13兆円

従来の「救済型」から 「成長投資型」へ

単なる延命ではなく、生産性の抜本的向上と事業規模拡大を目指す企業に資金が集中します。

 中小企業向け支援策総額：約1.13兆円

目的別・戦略的補助金活用マップ



Category: 【成長投資支援】

目標：売上高100億円企業（100億企業）の創出

- ・ 中小企業成長加速化補助金（拡充）
- ・ 大規模成長投資補助金（賃上げ・省力化による規模拡大）



Category: 【生産性向上・省力化】

目標：人手不足対応とAI時代の適応

- ・ デジタル化・AI導入補助金（※旧IT導入補助金から進化）
- ・ 中小企業省力化投資補助金（業種別プラン・上限見直し）

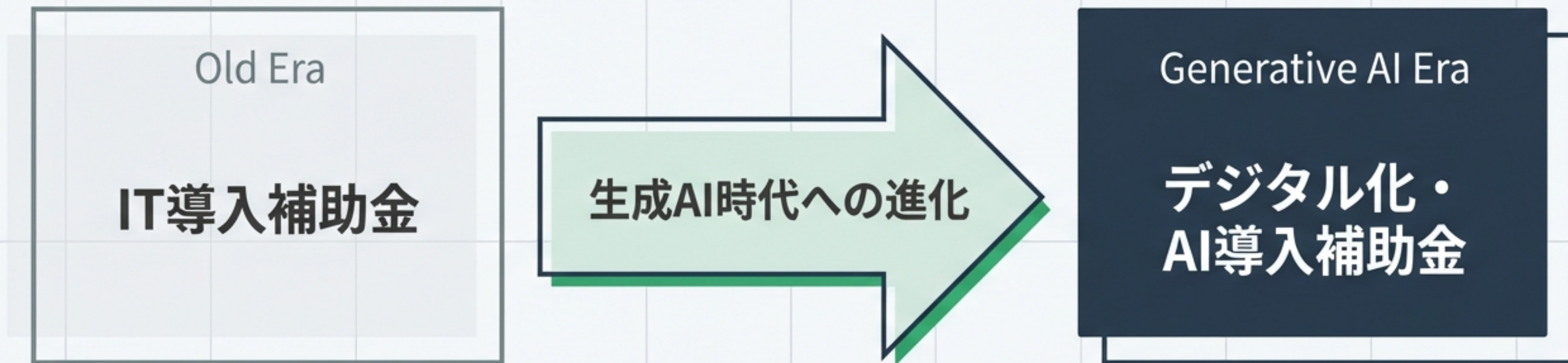


Category: 【新事業・承継】

目標：新市場進出と代謝

- ・ 新事業進出補助金
- ・ 事業承継・M&A補助金

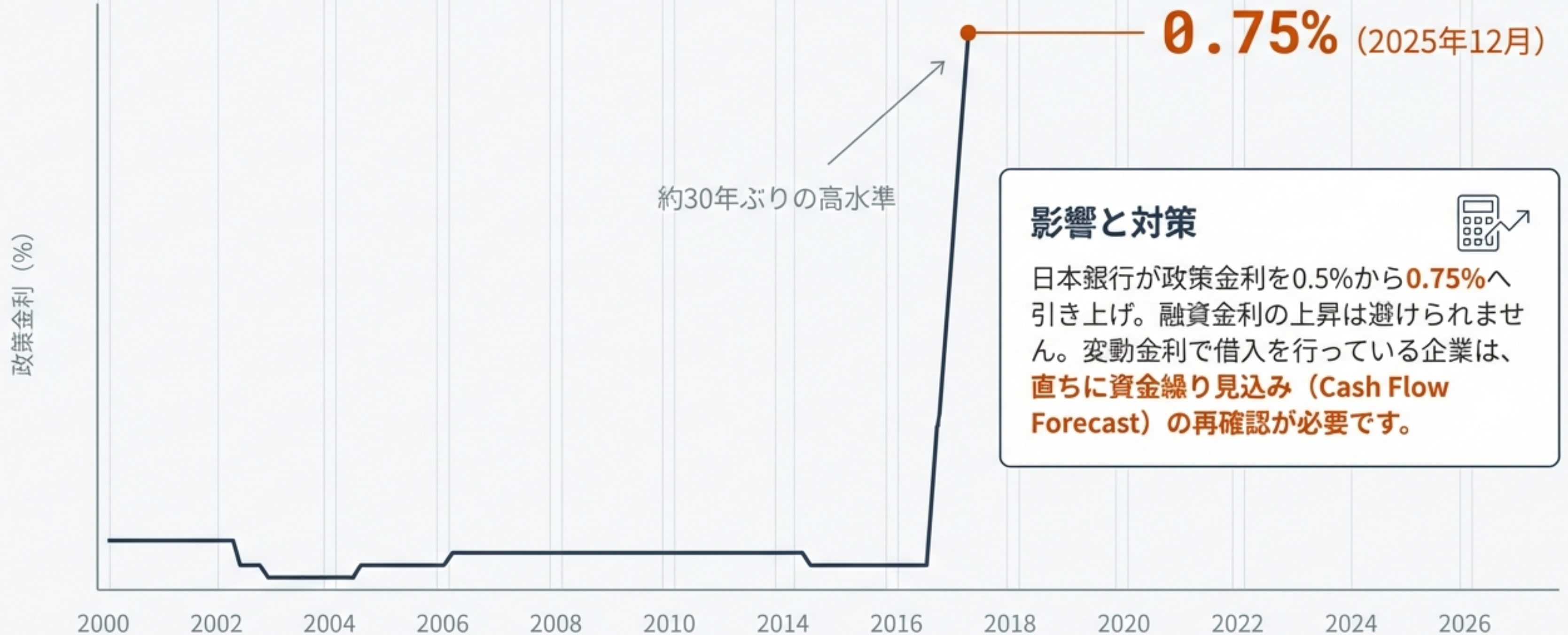
「IT導入」から「デジタル化・AI導入」へ：補助金名称変更が示唆する未来



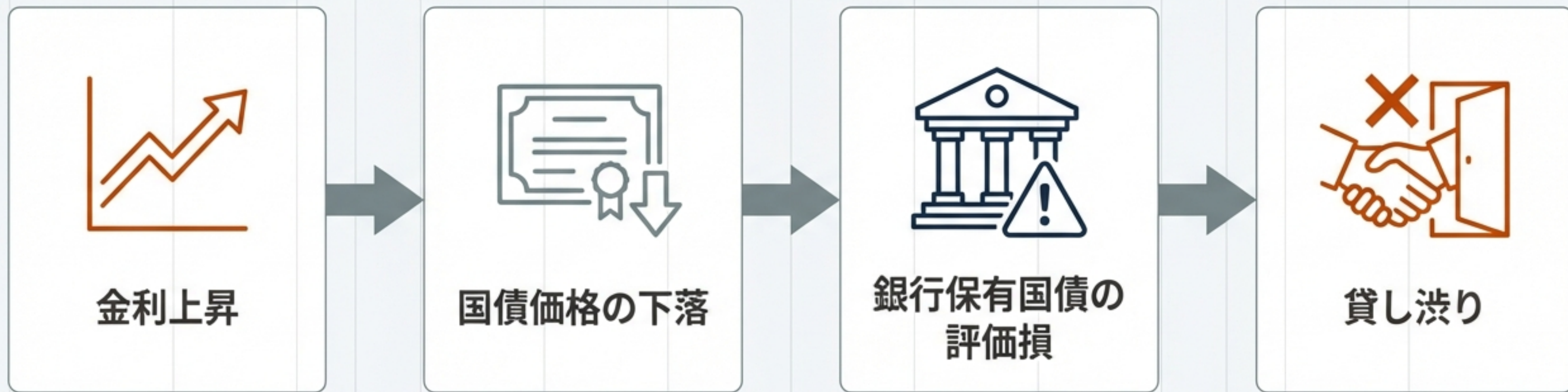
政府のメッセージ

これは単なる名称変更ではありません。政府は「AI活用」を中小企業の必須条件と位置付けています。物価高や米
国関税影響を踏まえたソフト支援も含まれており、単なるツール導入から、ビジネスモデルの変革（DX）が求め
られるフェーズに入りました。

「金利ある世界」の到来：政策金利0.75%が意味するもの



警戒すべきは金利負担だけではない。 「貸し渋り」発生メカニズム



金融機関の財務内容が悪化（毀損）することで、リスク許容度が低下し、企業への融資姿勢が厳格化する懸念があります。

貴社の業績に関わらず、金融機関側の事情で融資が止まるリスクがあります。

守りの財務戦略：取引金融機関との対話チェックリスト



[情報共有の徹底]

試算表だけでなく、事業計画や受注見込みを早期に共有し、透明性を高める。

[関係強化とリスク分散]

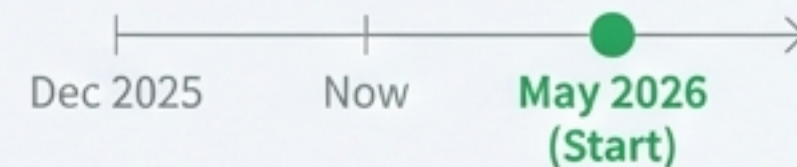
複数の金融機関（メガバンク、地銀、信金）とのパイプを維持し、リスクを分散する。

[資金繰りの可視化]

金利上昇分を織り込んだ、保守的な資金繰り表を作成・提示する。

「取引銀行と自社の情報共有を進め、より一層、取引銀行との関係強化を図ることが肝要です。」

2026年5月解禁。「企業価値担保権」という新たな選択肢



制度の概要

不動産などの「有形資産」に加え、事業ノウハウ、特許（知的財産）、顧客基盤などの「無形資産」を含めた、企業価値全体を担保とする新制度。

基本理念の転換

「何を持っているか（資産）」ではなく、「将来どれだけ稼げるか（キャッシュフロー）」に着目して融資が行われます。

担保の概念が変わる：有形資産から事業実態へ



これまでの常識 (Conventional)

担保 = 不動産・土地

保証 = 経営者個人 (経営者保証)

土地を持たない企業は借入困難



企業価値担保権の世界 (May 2026~)

担保 = 企業価値全体 (ノウハウ・知財・顧客基盤)

保証 = 原則不要

将来性と成長可能性 (事業性評価) で資金調達

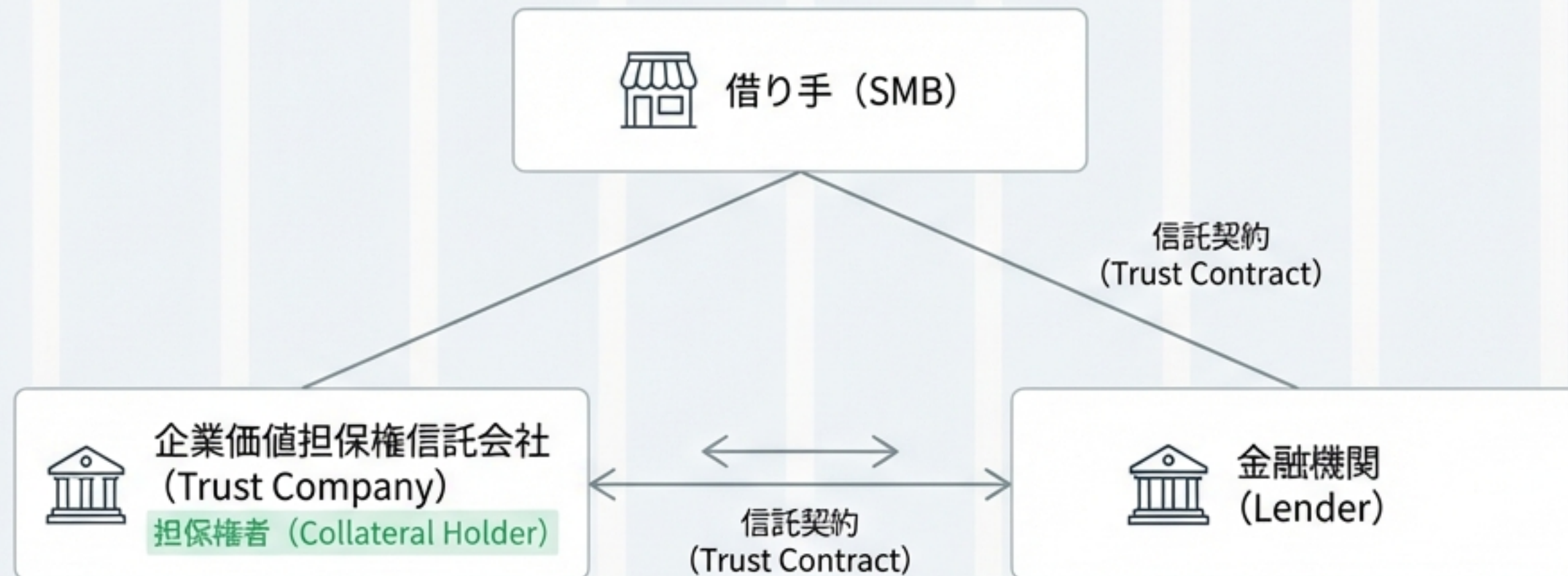
活用メリットと仕組み：経営者保証からの解放



経営者保証の利用制限

企業価値担保権を活用する場合、例外（粉飾決算等）を除き、**経営者保証が制限されます**。
これにより、経営者は**個人資産をリスクに晒すことなく**、思い切った事業展開が可能になります。

信託スキームの活用



2026年 中小企業経営のプレイブック



Step 1: Invest (補助金で攻める)

「**成長加速化**」 「**省力化**」
補助金をフル活用し、労働生産性を抜本的に向上させる。**AI導入**は待ったなし。



Step 2: Defend (財務で守る)

0.75%金利を前提としたコスト管理。金融機関との対話を密にし、貸し渋りに備えた手元流動性を確保する。



Step 3: Leverage (新制度で伸ばす)

不動産依存からの脱却。
2026年5月以降、自社の「**企業価値**」を可視化し、**無担保・無保証**での資金調達に挑戦する。

変化を恐れず、確かな一歩を

本レポートの内容に関するご相談、詳細なシミュレーションについては下記までお問い合わせください。

株式会社壺市コンサルティング